

テレビメディアによる障害者スポーツ情報発信環境調査

■目次

調査概要

- (1) 調査目的
- (2) データ抽出内容
- (3) データ抽出条件
- (4) データ抽出期間
- (5) データ提供者
- (6) 集計・分析
- (7) 大会名の略称

要約

調査報告

1. メディア放送時間(単純集計)
 - 1.1 過去 5 大会(冬季)の放送時間の変遷
 - 1.2 過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間の変遷
 - 1.3 過去 5 大会(冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間
 - 1.4 過去 10 大会(夏季・冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間
 - 1.5 テレビ局別に見る放送時間
 - 1.6 番組カテゴリー別に見る放送時間
 - 1.7 番組内コーナー別に見る放送時間
2. メディア放送時間(クロス集計)
 - 2.1 テレビ局別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間
 - 2.2 テレビ局別に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間
 - 2.3 番組カテゴリー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間
 - 2.4 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間
 - 2.5 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る過去 5 大会(冬季)の期間別放送時間
 - 2.6 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の期間別放送時間
 - 2.7 番組内コーナー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間
 - 2.8 番組内コーナー別(上位 2 位)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間
3. ミラノ大会日本代表選手別の放送時間
4. まとめと考察

執筆者紹介

調査概要

(1)調査目的

ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック大会の開催に合わせ、障害者スポーツのテレビでの露出状況（量的、番組傾向、トピックスなど）を把握し、影響度や障害者スポーツの社会的認知度を図る。

(2)データ抽出内容

放送日時、テレビ局、番組名、放送時間、番組カテゴリー、番組内コーナーなどの項目でデータを抽出する。

(3)データ抽出条件

東京都内での地上波デジタル(メインのみ)の放送環境を有するテレビ局の東京エリア放送分のデータをもとに、検索対象ワードとして、①“パラリン”、②“障害” AND “スポーツ”、③“障がい” AND “スポーツ”、④“パラスポーツ”の4条件を設定した。①について、“パラ”と設定した場合、パラリンピック関連以外のワードが大量に対象となってしまうために、本調査では、「パラリンピック」「パラリンピアン」のいずれかのワードが対象となるように、“パラリン”を検索対象ワードに設定した。なお、対象となったデータ件数は以下のとおりである。

図表 1 大会別対象データ件数

	①“パラリン”	②“障害”AND “スポーツ”	③“障がい”AND “スポーツ”	④“パラスポーツ”
バンクーバー2010 パラリンピック	758 件	15 件	0 件	0 件
ソチ 2014 パラリンピック	1,164 件	35 件	3 件	0 件
平昌 2018 パラリンピック	2,117 件	59 件	8 件	22 件
北京 2022 パラリンピック	1,409 件	52 件	5 件	11 件
ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック	656 件	18 件	3 件	4 件

(4)データ抽出期間

図表 2 大会別のデータ抽出期間

	開会前(31 日間)	開催中	開催後(31 日間)
バンクーバー2010 パラリンピック	2010/2/9～2010/3/11	2010/3/12～2010/3/21	2010/3/22～2010/4/21
ソチ 2014 パラリンピック	2014/2/4～2014/3/6	2014/3/7～2014/3/16	2014/3/17～2014/4/16
平昌 2018 パラリンピック	2018/2/6～2018/3/8	2018/3/9～2018/3/18	2018/3/19～2018/4/18
北京 2022 パラリンピック	2022/2/1～2022/3/3	2022/3/4～2022/3/13	2022/3/14～2022/4/13
ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック	2026/2/1～2026/3/3	2026/3/4～2026/3/15	2026/3/16～2026/4/15

注)ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック開催中の期間は、開会式 3/6 ではなく競技開始日の 3/4～とする。

(5)データ提供者

株式会社エム・データ (M Data Co.,Ltd.)

住所:東京都港区新橋一丁目 12 番 9 号 新橋プレイス 6 階 ビジネスエアポート新橋内

TEL:03-6826-7060

URL:<https://mdata.tv/>

(6)集計・分析

株式会社サーベイリサーチセンター 調査事務局

住所:東京都文京区後楽 1-1-3

TEL:03-5990-9305

URL:<https://www.surece.co.jp>

(7)大会名の略称

本報告書では、夏季・冬季パラリンピック競技大会の名称は以下の表記とする。

- ・ 北京 2008 パラリンピック競技大会(以下、北京大会(夏))
- ・ バンクーバー2010 パラリンピック競技大会(以下、バンクーバー大会)
- ・ ロンドン 2012 パラリンピック競技大会(以下、ロンドン大会)
- ・ ソチ 2014 パラリンピック競技大会(以下、ソチ大会)
- ・ リオデジャネイロ 2016 パラリンピック競技大会(以下、リオ大会)
- ・ 平昌 2018 パラリンピック競技大会(以下、平昌大会)
- ・ 東京 2020 パラリンピック競技大会(以下、東京大会)
- ・ 北京 2022 パラリンピック競技大会(以下、北京大会(冬))
- ・ パリ 2024 パラリンピック競技大会(以下、パリ大会)
- ・ ミラノ・コルティナ 2026 パラリンピック競技大会(以下、ミラノ大会)

要約

- ◆ 過去 5 大会の放送時間は、バンクーバー大会が 35 時間 27 分 13 秒、ソチ大会が 72 時間 5 分 15 秒、平昌大会が 113 時間 28 分 40 秒、北京大会(冬)が 79 時間 18 分 26 秒、ミラノ大会が 35 時間 45 分 49 秒で、ミラノ大会は北京大会(冬)の約 2 分の 1 に減少し、バンクーバー大会と同規模の放送時間となった(図表 3)。
- ◆ ミラノ大会の「開催前」「開催中」「開催後」の放送時間を見ると、いずれの期間においても北京大会(冬)から減少しており、「開催前」「開催後」はバンクーバー大会を下回る放送時間、「開催中」はソチ大会と同規模の放送時間となった(図表 5)。
- ◆ 過去 5 大会のテレビ局別の合計放送時間は、「NHK 総合」(154 時間 15 分 17 秒)が最も多く、ついで、「NHK 教育」が 57 時間 58 分 39 秒、「日本テレビ」が 34 時間 34 分 25 秒であった(図表 9)。大会別に 10 時間以上放送しているテレビ局は、バンクーバー大会、ソチ大会、ミラノ大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の 2 局、平昌大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」の 3 局、北京大会(冬)では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」の 4 局であった(図表 13)。
- ◆ 過去 5 大会の番組カテゴリー別の合計放送時間は、「スポーツ」(119 時間 26 分 30 秒)が最も多く、ついで、「ニュース/報道」が 103 時間 16 分 2 秒、「情報/ワイドショー」が 68 時間 36 分 14 秒であった(図表 10)。「スポーツ」「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」の放送時間は、いずれも平昌大会が最も多く、北京大会(冬)、ミラノ大会は続けて減少となった(図表 15)。
- ◆ 過去 5 大会の番組カテゴリー別の合計放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分けて見ると、「スポーツ」では、5 大会ともに「開催中」が最も多く、「ニュース/報道」においては、ソチ大会、平昌大会は「開催前」、バンクーバー大会、北京大会(冬)、ミラノ大会は「開催中」の放送時間が最も多かった(図表 17)。「情報/ワイドショー」では、バンクーバー大会、ソチ大会、北京大会(冬)は「開催前」と「開催中」の放送時間がほぼ同規模となっており、平昌大会、ミラノ大会は「開催前」の放送時間が最も多かった。
- ◆ 番組内に設けられたコーナー別の放送時間は、過去 5 大会ともに「スポーツ」が最も多く、ソチ大会から平昌大会にかけては放送時間が倍増したが、以降の北京大会(冬)、ミラノ大会は減少が続いた(図表 19)。
- ◆ ミラノ大会日本代表選手 44 人の選手別放送時間は、「開催前」「開催中」「開催後」の合計放送時間の上位 7 人の中にミラノ大会のメダリスト 3 人全員が含まれており、「開催後」の放送時間においては上位 3 人はメダリストが占めた(図表 21,22)。

調查報告

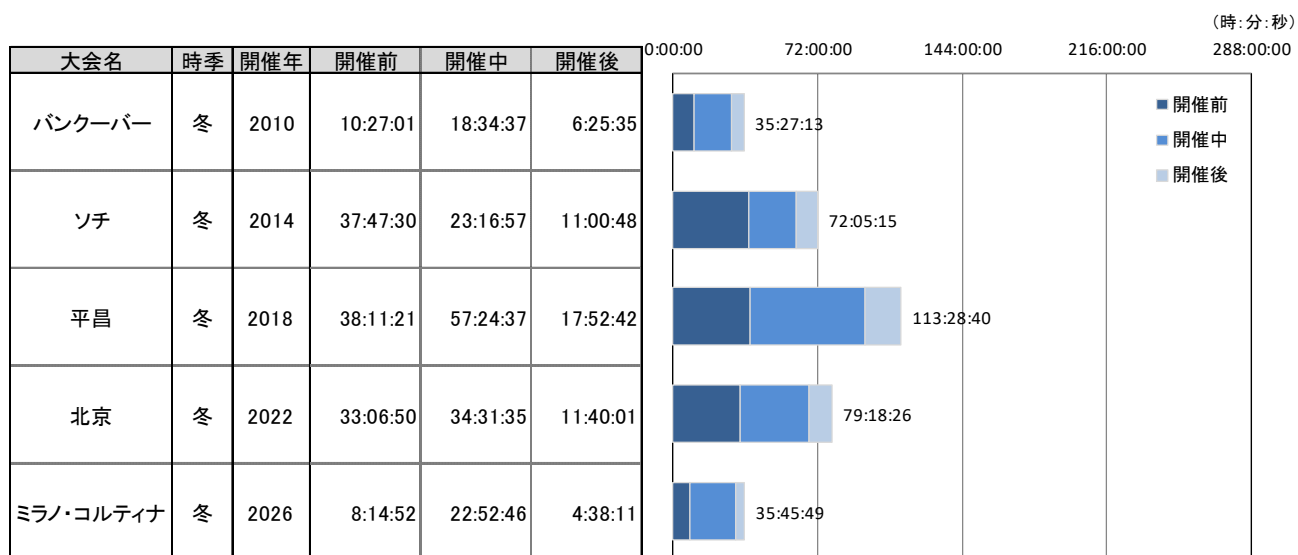
1. メディア放送時間(単純集計)

バンクーバー大会、ソチ大会、平昌大会、北京大会(冬)、ミラノ大会の地上波テレビ放送をパラリンピックの「開催前」31日間、「開催中」、「開催後」31日間で見ると、5大会の合計放送時間は、336時間5分23秒であった。

1.1 過去5大会(冬季)の放送時間の変遷

過去5大会(冬季)の大会別放送時間は、バンクーバー大会が35時間27分13秒、ソチ大会が72時間5分15秒、平昌大会が113時間28分40秒、北京大会(冬)が79時間18分26秒、ミラノ大会が35時間45分49秒であった(図表3)。平昌大会で増加した放送時間は北京大会(冬)で減少、さらにミラノ大会は北京大会(冬)の約2分の1に減少し、バンクーバー大会と同規模の放送時間となった。

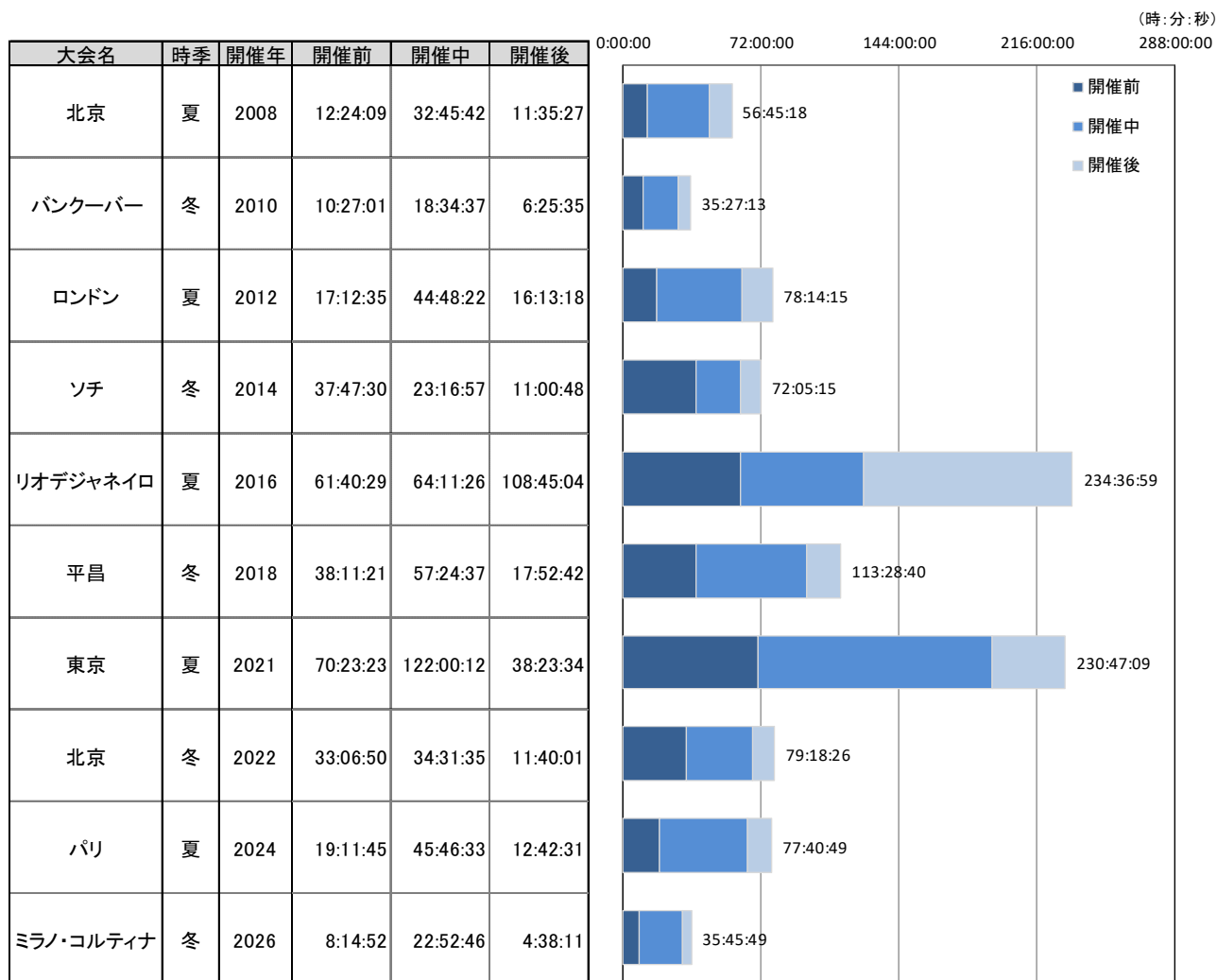
図表3 過去5大会(冬季)の放送時間



1.2 過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間の変遷

夏季大会、冬季大会を合わせた大会ごとの放送時間を時系列で見た(図表 4)。最も放送時間が多かったのはリオ大会の 234 時間 36 分 59 秒、ついで僅差で東京大会が 230 時間 47 分 9 秒となっている。最も放送時間が少なかったのはバンクーバー大会の 35 時間 27 分 13 秒であったが、ミラノ大会も 35 時間 45 分 49 秒と僅差で並んでいる。

図表 4 過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間



1.3 過去 5 大会(冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間

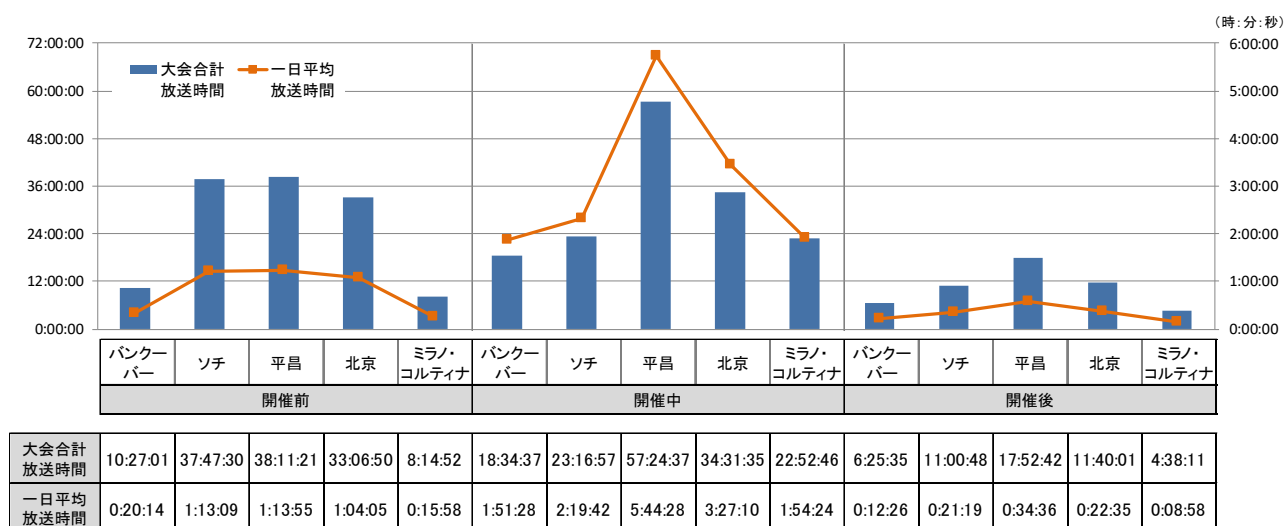
過去 5 大会(冬季)の大会別放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分け、合計放送時間と一日平均放送時間について見た(図表 5)。

「開催前」では、バンクーバー大会からソチ大会にかけては 10 時間 27 分 1 秒から 37 時間 47 分 30 秒と約 4 倍増となり、平昌大会でも同規模の放送時間となったが、北京大会(冬)では 33 時間 6 分 50 秒とやや減少、ミラノ大会では 8 時間 14 分 52 秒と大幅減となった。

「開催中」では、バンクーバー大会からソチ大会にかけてはやや増加し、平昌大会では 57 時間 24 分 37 秒と大幅増となった。以降、北京大会(冬)、ミラノ大会と徐々に減少し、ミラノ大会では 22 時間 52 分 46 秒と、ソチ大会と同規模の放送時間となった。

「開催後」では、バンクーバー大会の 6 時間 25 分 35 秒からソチ大会、平昌大会と放送時間は緩やかに増加し、平昌大会では 17 時間 52 分 42 秒となったが、北京大会(冬)、ミラノ大会にかけては減少し、ミラノ大会では 4 時間 38 分 11 秒と、バンクーバー大会を下回った。

図表 5 過去 5 大会(冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間

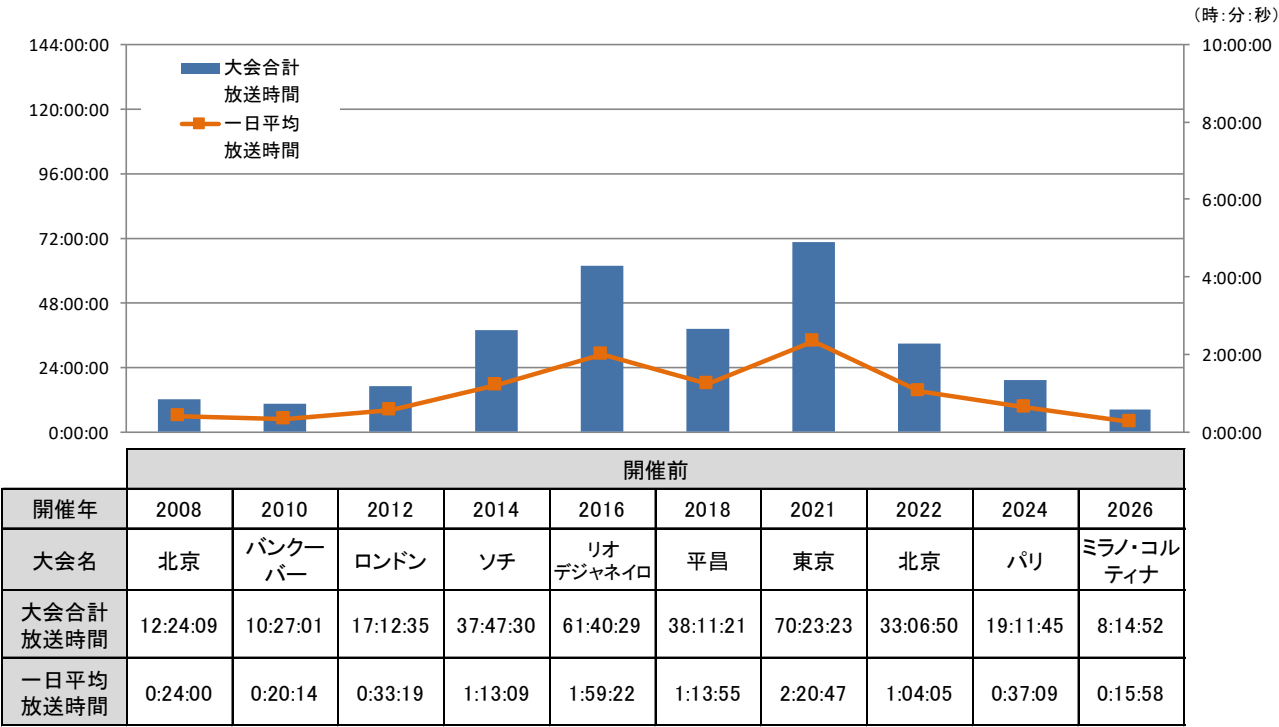


1.4 過去 10 大会(夏季・冬季)の開催前・開催中・開催後別放送時間

過去 10 大会(夏季・冬季)の大会別放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分け、合計放送時間と一日平均放送時間について見た。

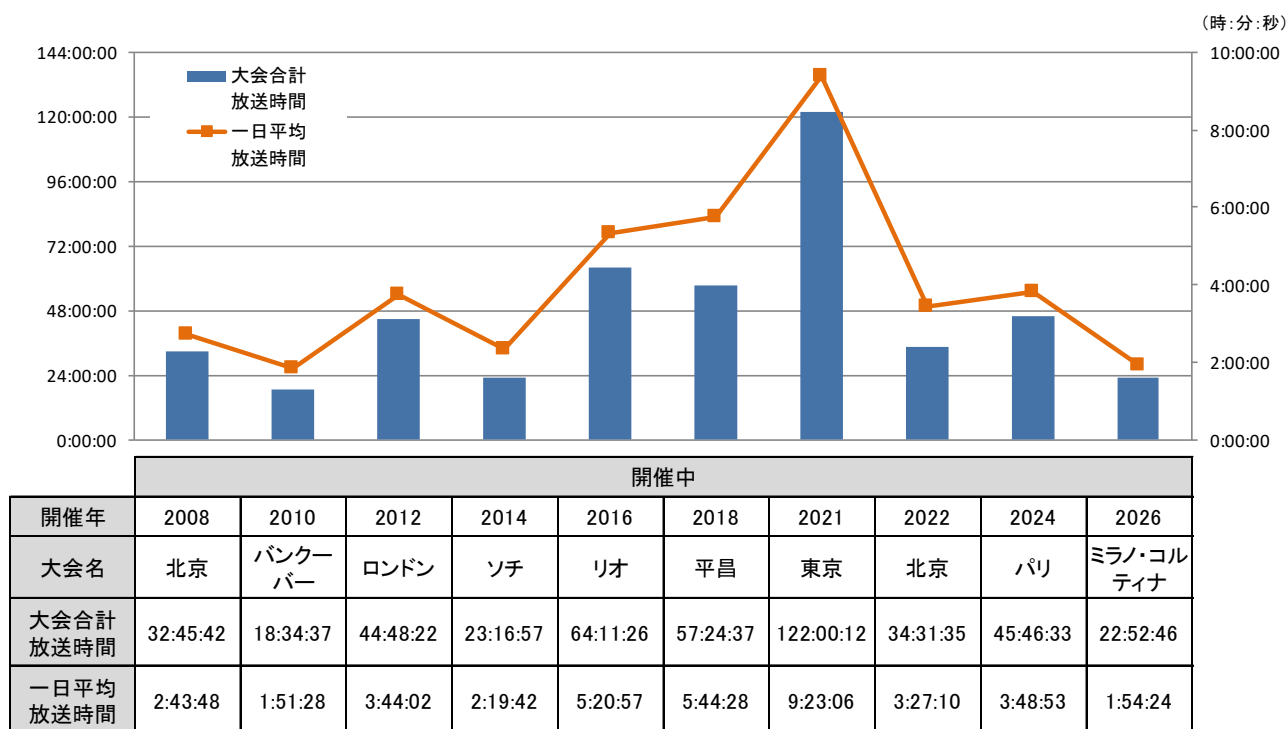
「開催前」の一日平均放送時間を見ると、東京大会が 2 時間 20 分 47 秒で最も多く、ついでリオ大会が 1 時間 59 分 22 秒であった(図表 6)。一方、ミラノ大会は 15 分 58 秒と最も少ない。

図表 6 過去 10 大会(夏季・冬季)の開催前の放送時間



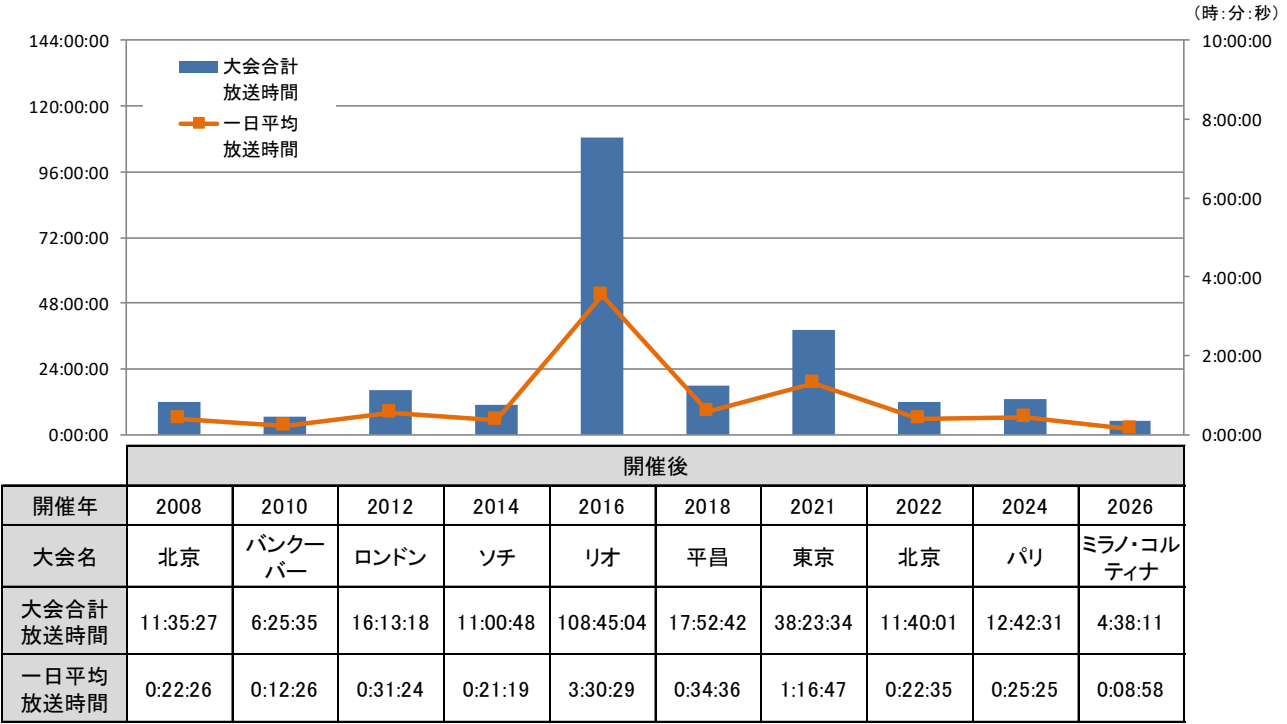
「開催中」の一日平均放送時間を見ると、東京大会が9時間23分6秒で最も多く、ついで平昌大会が5時間44分28秒、リオ大会が5時間20分57秒であった(図表7)。一方、バンクーバー大会は1時間51分28秒と最も少なく、ミラノ大会が1時間54分24秒と僅差で並んでいる。

図表7 過去10大会(夏季・冬季)の開催中の放送時間



「開催後」の一日平均放送時間を見ると、リオ大会が3時間30分29秒で最も多く、ついで東京大会が1時間16分47秒であった(図表8)。一方、ミラノ大会は8分58秒と最も少ない。

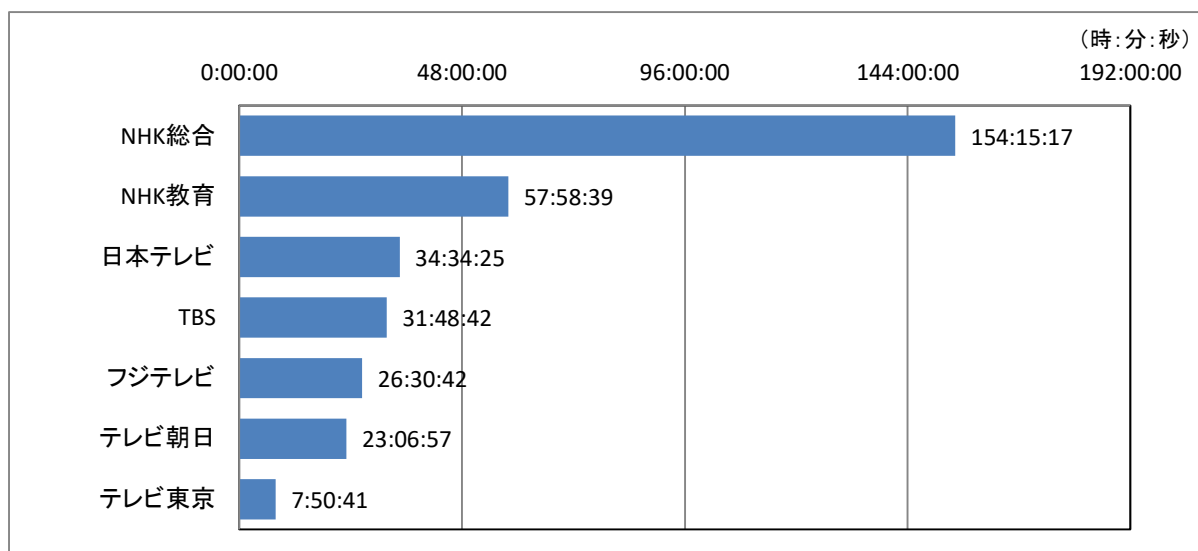
図表 8 過去 10 大会(夏季・冬季)の開催後の放送時間



1.5 テレビ局別に見る放送時間

過去 5 大会(冬季)のテレビ局別の合計放送時間は、「NHK 総合」が 154 時間 15 分 17 秒と最も多く、ついで「NHK 教育」が 57 時間 58 分 39 秒、「日本テレビ」が 34 時間 34 分 25 秒であった(図表 9)。

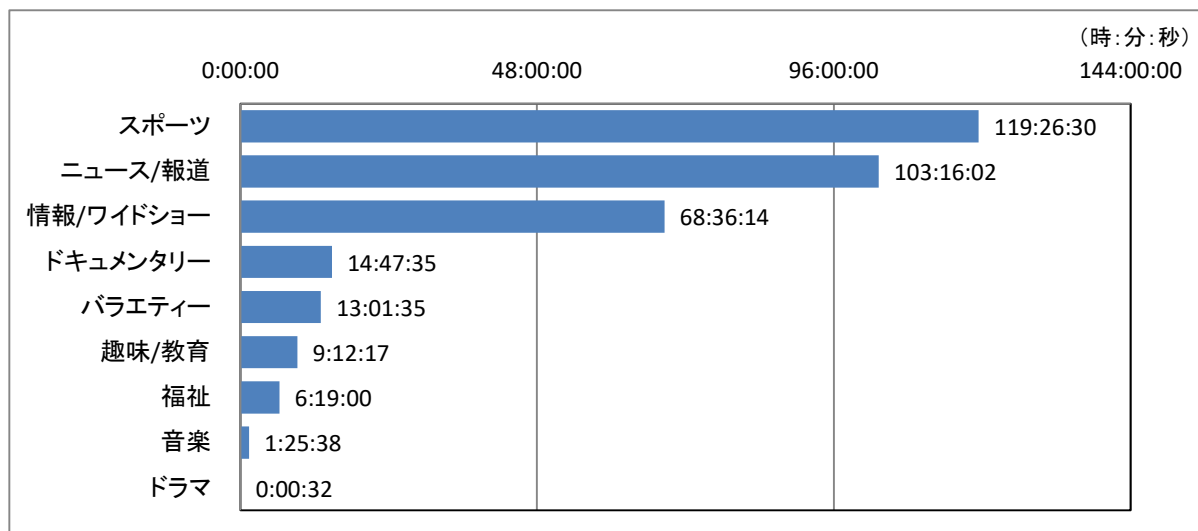
図表 9 テレビ局別に見る放送時間(過去 5 大会(冬季)合計)



1.6 番組カテゴリー別に見る放送時間

過去 5 大会(冬季)の番組カテゴリー別の合計放送時間は、「スポーツ」が 119 時間 26 分 30 秒と最も多く、ついで「ニュース/報道」が 103 時間 16 分 2 秒、「情報/ワイドショー」が 68 時間 36 分 14 秒であった(図表 10)。

図表 10 番組カテゴリー別に見る放送時間(過去 5 大会(冬季)合計)



注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

参考までに、番組カテゴリー別に主な番組名をまとめると、図表 11 のとおりである。

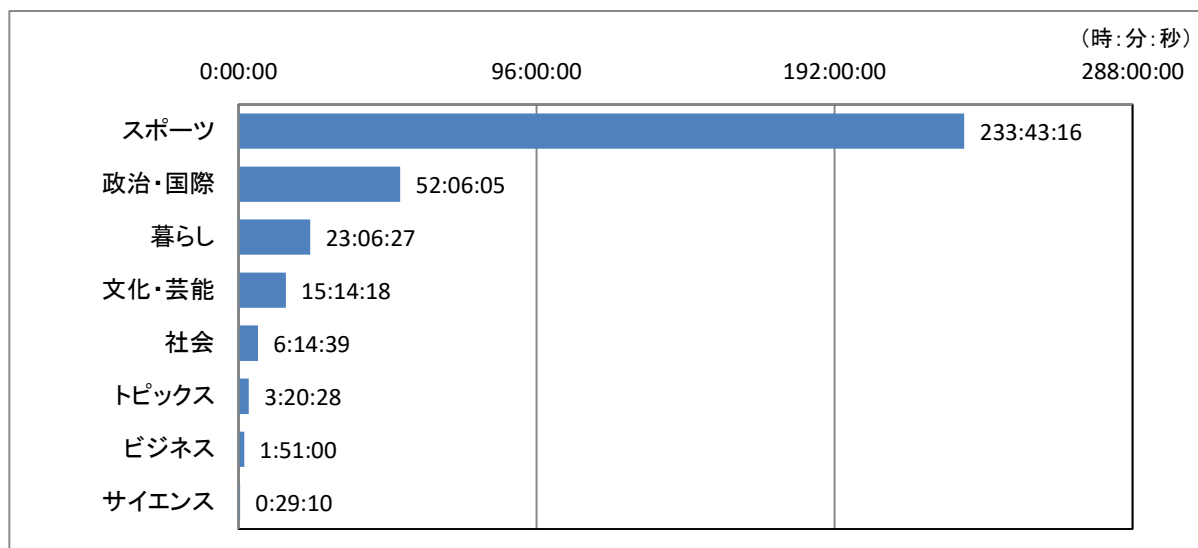
図表 11 【参考】番組カテゴリー別に見る主なテレビ番組

番組カテゴリー	『番組名(テレビ局名)』
情報/ワイドショー	『ミラノ・コルティナ2026パラリンピックどうしても・・・(NHK総合)』 『日テレアップDate! (日本テレビ)』『ZIP! (日本テレビ)』『シューイチ(日本テレビ)』 『ひるおび(TBS)』『ゴゴスマ～GOGO! Smile! ～(TBS)』『THE TIME, (TBS)』 『めざましテレビ(フジテレビ)』『Mr. サンデー(フジテレビ)』 『大下容子ワイド! スクラブル(テレビ朝日)』『グッド! モーニング(テレビ朝日)』など
ニュース/報道	『NHK NEWS おはよう日本(NHK総合)』『ニュースウオッチ9(NHK総合)』 『ミラノ・コルティナ2026パラリンピックデイリーハイライト(NHK教育)』 『newsevery. (日本テレビ)』 『Nスタ(TBS)』『サンデーモーニング(TBS)』 『LiveNews イット! (フジテレビ)』『FNN LiveNews α (フジテレビ)』 『有働Times(テレビ朝日)』『報道ステーション(テレビ朝日)』など
スポーツ	『ミラノ・コルティナ2026パラリンピックデイリーハイライト(NHK総合)』 『ミラノ・コルティナ2026パラリンピックアルペンスキー(NHK教育)』 『Going! Sports & News(日本テレビ)』 『S☆1(TBS)』 『すぽると! (フジテレビ)』 『GET SPORTS(テレビ朝日)』 『スポーツリアライブ～SPORTS Real & Live～(テレビ東京)』など

1.7 番組内コーナー別に見る放送時間

番組内に設けられたコーナー別に過去 5 大会(冬季)の合計放送時間を見ると、最も取り上げられたコーナーは「スポーツ」(233 時間 43 分 16 秒)で、ついで「政治・国際」(52 時間 6 分 5 秒)、「暮らし」(23 時間 6 分 27 秒)であった(図表 12)。

図表 12 番組内コーナー別に見る放送時間(過去 5 大会(冬季)合計)



注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース／報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2. メディア放送時間(クロス集計)

2.1 テレビ局別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間

テレビ局別に過去 5 大会(冬季)の放送時間を見ると、「NHK 総合」「日本テレビ」「テレビ朝日」では平昌大会の放送時間が最も多く、「TBS」「フジテレビ」「テレビ東京」では、北京大会(冬)に向けて徐々に放送時間が増加している(図表 13)。

「NHK 総合」は、平昌大会の放送時間が 60 時間を超え突出しており、ついでソチ大会が 36 時間 48 分 8 秒となった。北京大会(冬)が 26 時間 18 分 8 秒と、ソチ大会に比べ大幅に減少しているものの、他の放送局との比較では大幅増となった。

「NHK教育」は、ソチ大会が 13 時間 5 分 44 秒と最も多いが、その他の大会はいずれも 10 時間～12 時間未満の同規模となっており、大会による大きな差は見られなかった。

「日本テレビ」「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」「テレビ東京」はいずれも、バンクーバー大会から北京大会(冬)に向けては増加傾向である一方、ミラノ大会では大幅に減少するという同様の傾向が見られた。

10 時間以上放送したテレビ局を大会別に見ると、バンクーバー大会、ソチ大会、ミラノ大会では「NHK 総合」「NHK 教育」の 2 局、平昌大会では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」の 3 局、北京大会(冬)では「NHK 総合」「NHK 教育」「日本テレビ」「TBS」の 4 局であった。

図表 13 テレビ局別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間

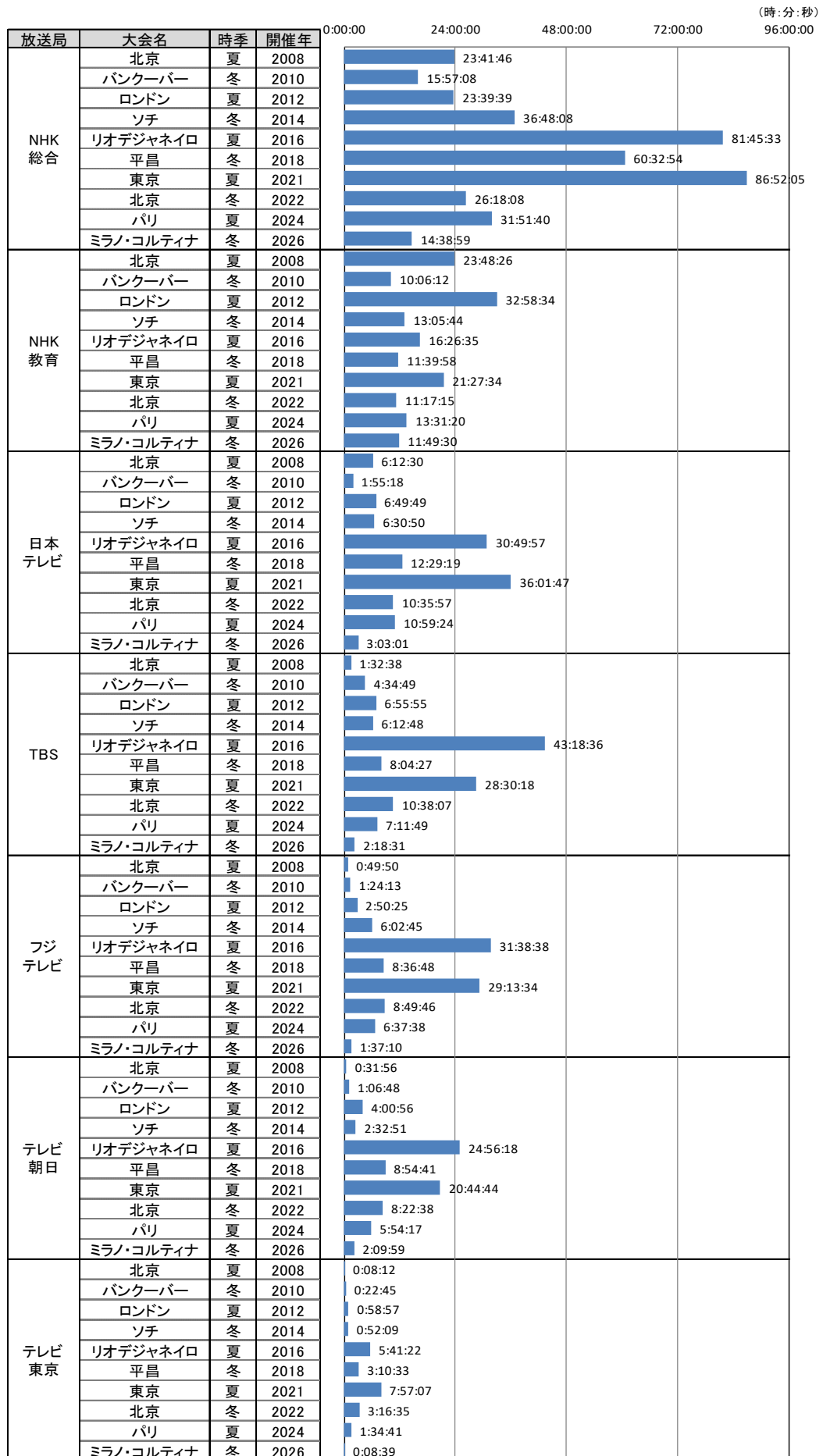
(時:分:秒)

放送局	大会名	時季	開催年	0:00:00	24:00:00	48:00:00	72:00:00
NHK 総合	バンクーバー	冬	2010	15:57:08			
	ソチ	冬	2014	36:48:08			
	平昌	冬	2018	60:32:54			
	北京	冬	2022	26:18:08			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	14:38:59			
NHK 教育	バンクーバー	冬	2010	10:06:12			
	ソチ	冬	2014	13:05:44			
	平昌	冬	2018	11:39:58			
	北京	冬	2022	11:17:15			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	11:49:30			
日本 テレビ	バンクーバー	冬	2010	1:55:18			
	ソチ	冬	2014	6:30:50			
	平昌	冬	2018	12:29:19			
	北京	冬	2022	10:35:57			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	3:03:01			
TBS	バンクーバー	冬	2010	4:34:49			
	ソチ	冬	2014	6:12:48			
	平昌	冬	2018	8:04:27			
	北京	冬	2022	10:38:07			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	2:18:31			
フジ テレビ	バンクーバー	冬	2010	1:24:13			
	ソチ	冬	2014	6:02:45			
	平昌	冬	2018	8:36:48			
	北京	冬	2022	8:49:46			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	1:37:10			
テレビ 朝日	バンクーバー	冬	2010	1:06:48			
	ソチ	冬	2014	2:32:51			
	平昌	冬	2018	8:54:41			
	北京	冬	2022	8:22:38			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	2:09:59			
テレビ 東京	バンクーバー	冬	2010	0:22:45			
	ソチ	冬	2014	0:52:09			
	平昌	冬	2018	3:10:33			
	北京	冬	2022	3:16:35			
	ミラノ・コルティナ	冬	2026	0:08:39			

2.2 テレビ局別に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間

テレビ局ごとに過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間を見た(図表 14)。最も放送時間が多かったのは「NHK 総合」の東京大会で 86 時間 52 分 5 秒、ついで「NHK 総合」のリオ大会で 81 時間 45 分 33 秒であった。テレビ局別に最も放送時間の多かった大会を見ると、「NHK 教育」はロンドン大会、「日本テレビ」「テレビ東京」は東京大会、「TBS」「フジテレビ」「テレビ朝日」はリオ大会であった。

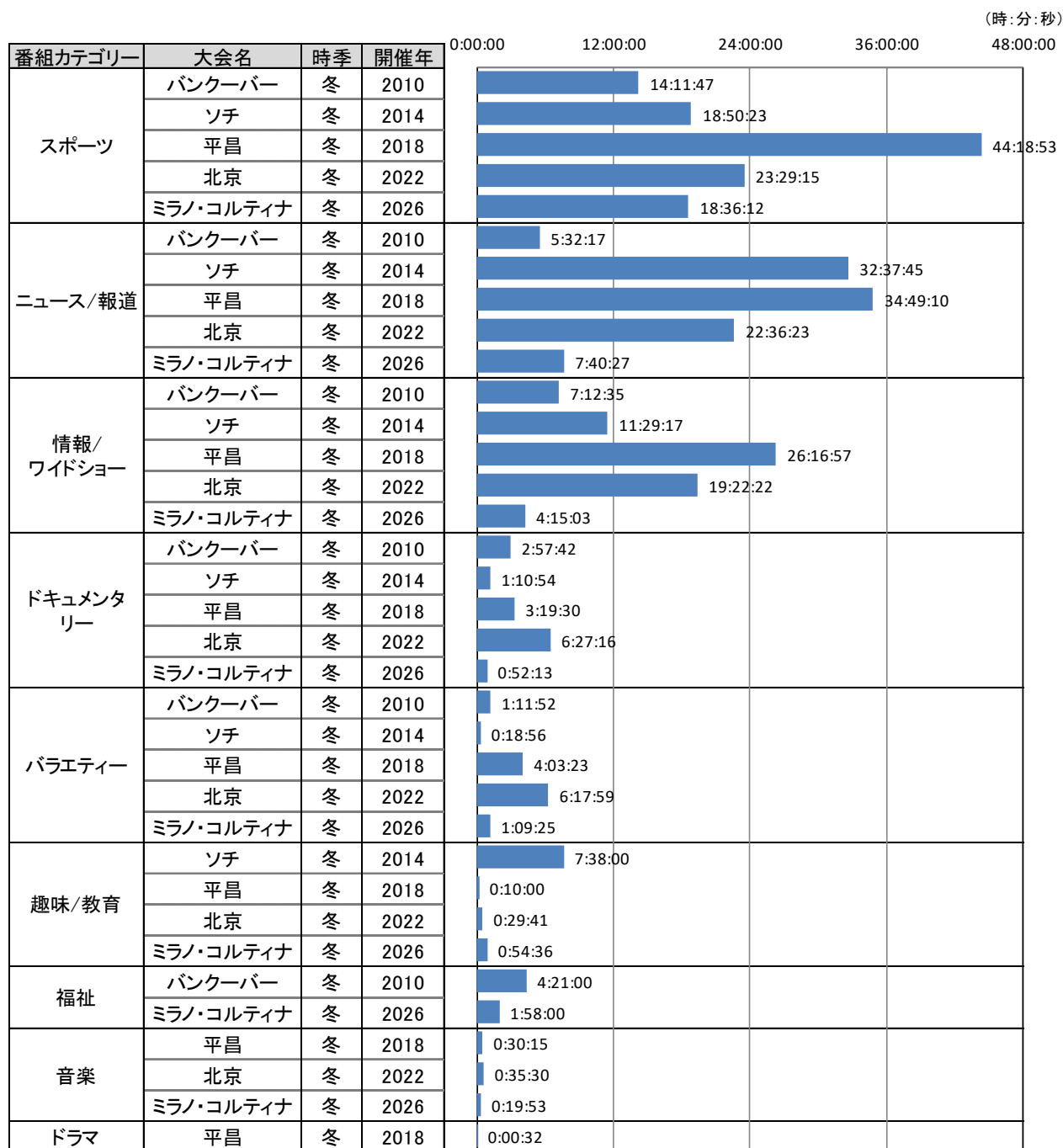
図表 14 テレビ局別に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間



2.3 番組カテゴリー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間

番組カテゴリー別に過去 5 大会(冬季)の放送時間を見ると、「スポーツ」「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」では、いずれも平昌大会が最も多く、特に「スポーツ」では 40 時間を超えたが、北京大会(冬)ではいずれも減少に転じ、ミラノ大会でもさらに減少となった(図表 15)。

図表 15 番組カテゴリー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間

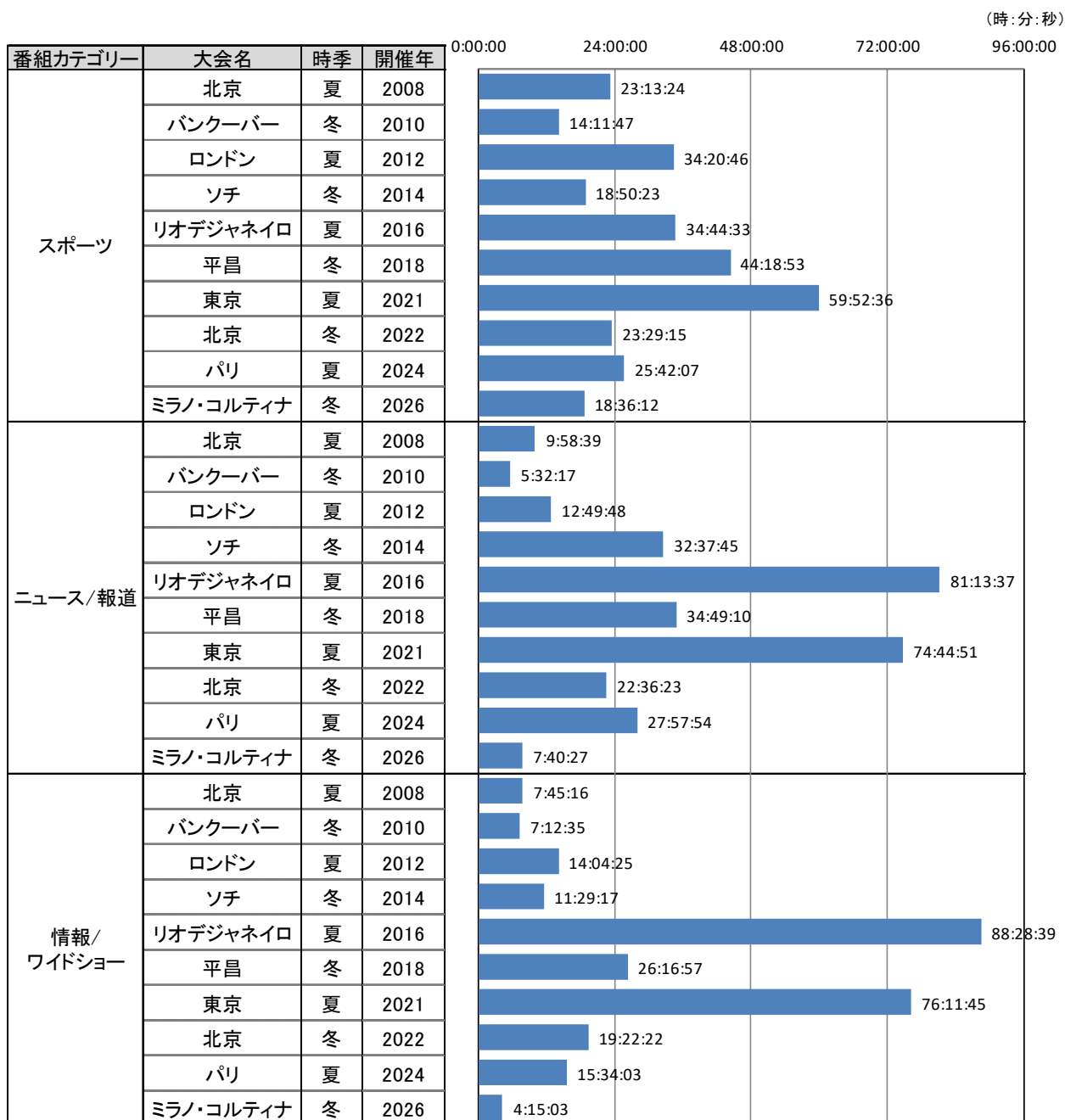


注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.4 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間

番組カテゴリー別に過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間を、「スポーツ」「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」について見た(図表 16)。「情報/ワイドショー」「ニュース/報道」では、リオ大会の放送時間がいずれも 80 時間を超え最も多く、ついで僅差で東京大会が多かった。「スポーツ」では、リオ大会、平昌大会、東京大会と 3 大会連続で増加し、東京大会が 60 時間弱と最も多かった。

図表 16 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る
過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間



注) 番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.5 番組カテゴリー別(上位3カテゴリー)に見る過去5大会(冬季)の期間別放送時間

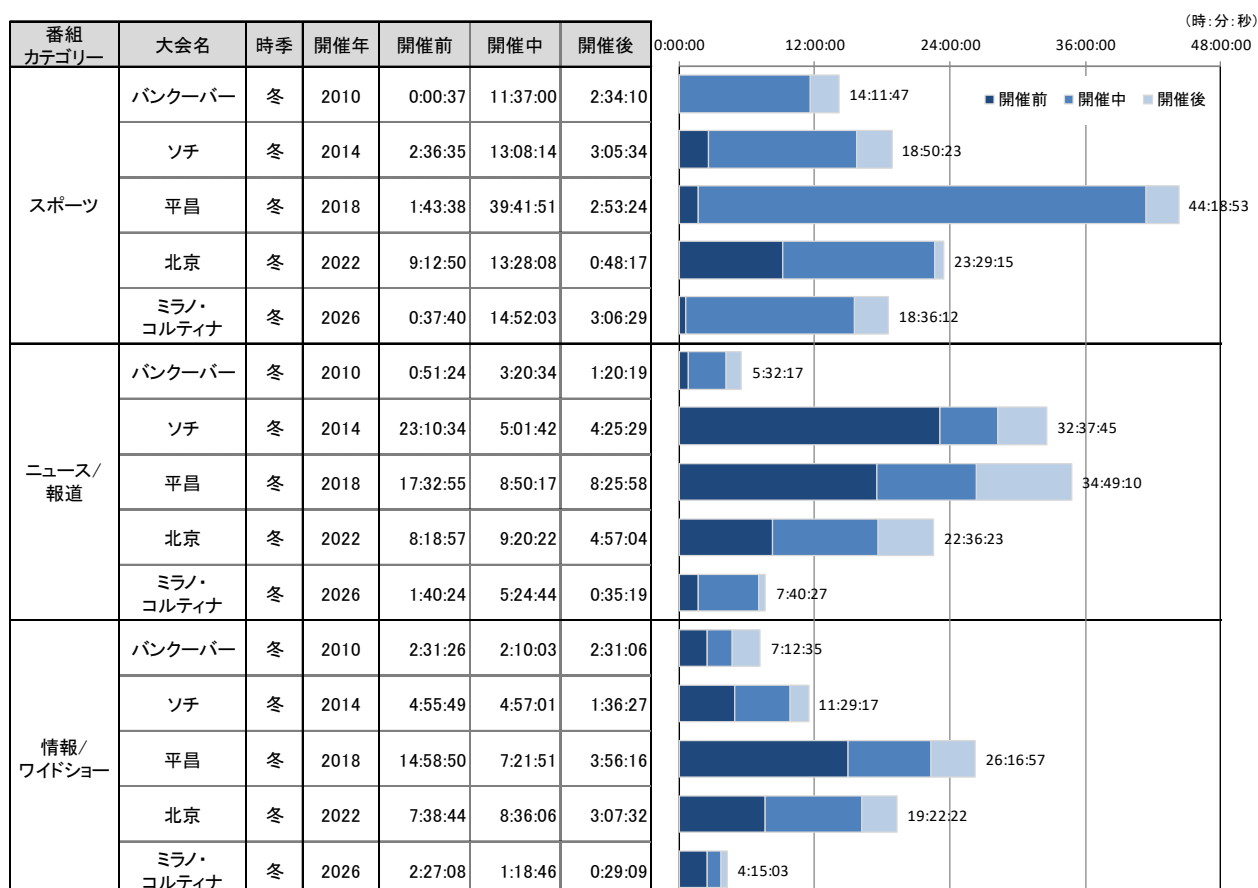
番組カテゴリー別の過去5大会(冬季)の放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」に分けて見た(図表17)。

「スポーツ」では、5大会ともに「開催中」が最も放送時間が多かった。特に平昌大会の「開催中」はソチ大会から大幅に増加した。北京大会(冬)は、平昌大会に比べ「開催前」の放送時間が増加した一方、「開催後」は減少し、1時間にも満たなかった。

「ニュース/報道」では、ソチ大会、平昌大会は「開催前」の放送時間が最も多く、バンクーバー大会、北京大会(冬)、ミラノ大会は「開催中」の放送時間が最も多かった。平昌大会においては「開催後」の放送時間も比較的に多く、「開催中」と同規模となっており、ソチ大会から増加した。

「情報/ワイドショー」では、バンクーバー大会、ソチ大会、北京大会(冬)は「開催前」と「開催中」の放送時間がほぼ同規模となっており、平昌大会、ミラノ大会は「開催前」の放送時間が最も多かった。「開催後」の放送時間は平昌大会が最も多く、以降2大会は減少し、ミラノ大会では30分弱と少なかった。

図表17 番組カテゴリー別(上位3カテゴリー)に見る
過去5大会(冬季)の期間別放送時間

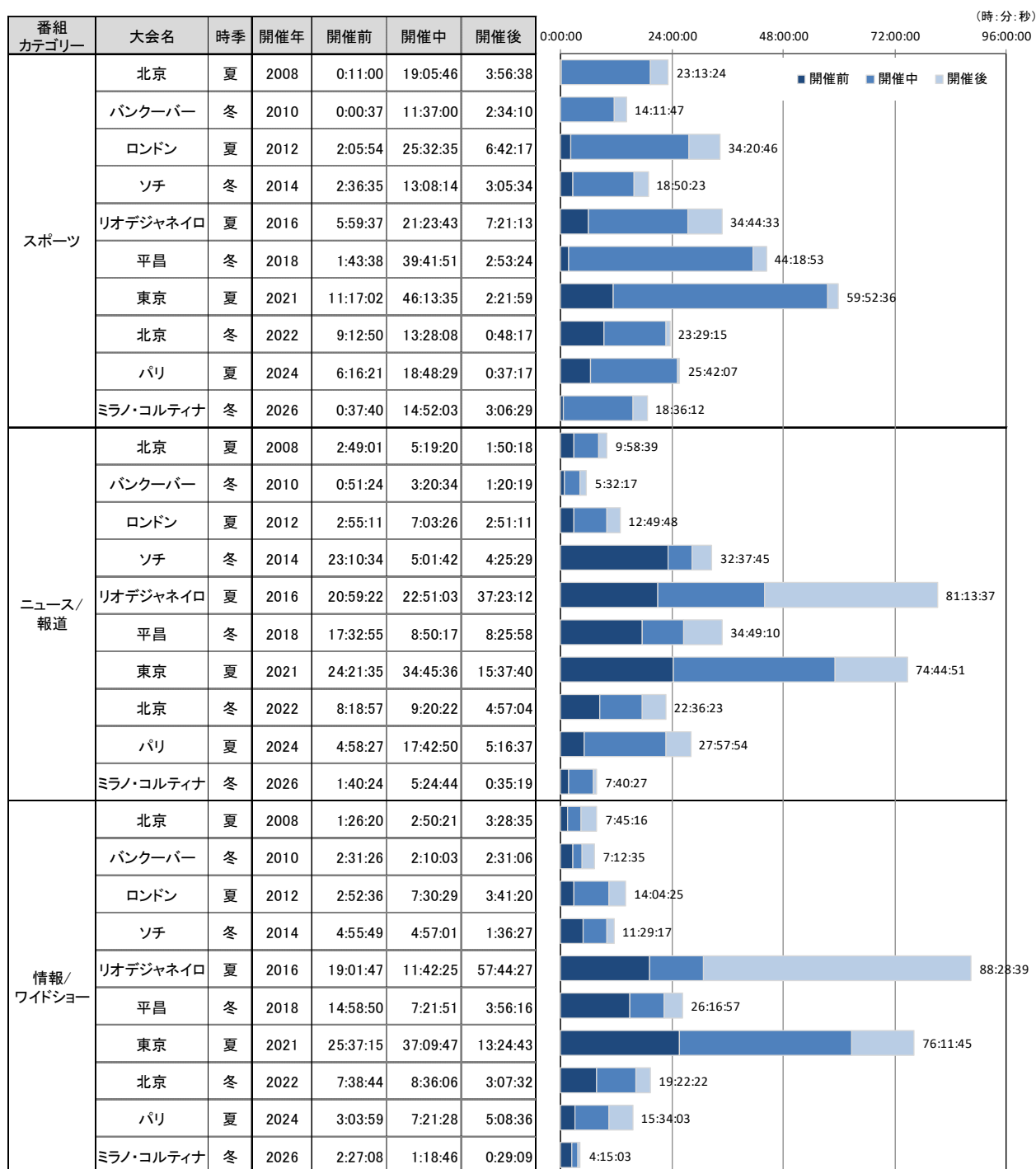


注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.6 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の期間別放送時間

番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)の過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間を「開催前」「開催中」「開催後」で見ると、「スポーツ」は、東京大会の「開催中」が最も多く、「ニュース/報道」「情報/ワイドショー」は、リオ大会の「開催後」が最も多かった(図表 18)。

図表 18 番組カテゴリー別(上位 3 カテゴリー)に見る
過去 10 大会(夏季・冬季)の期間別放送時間



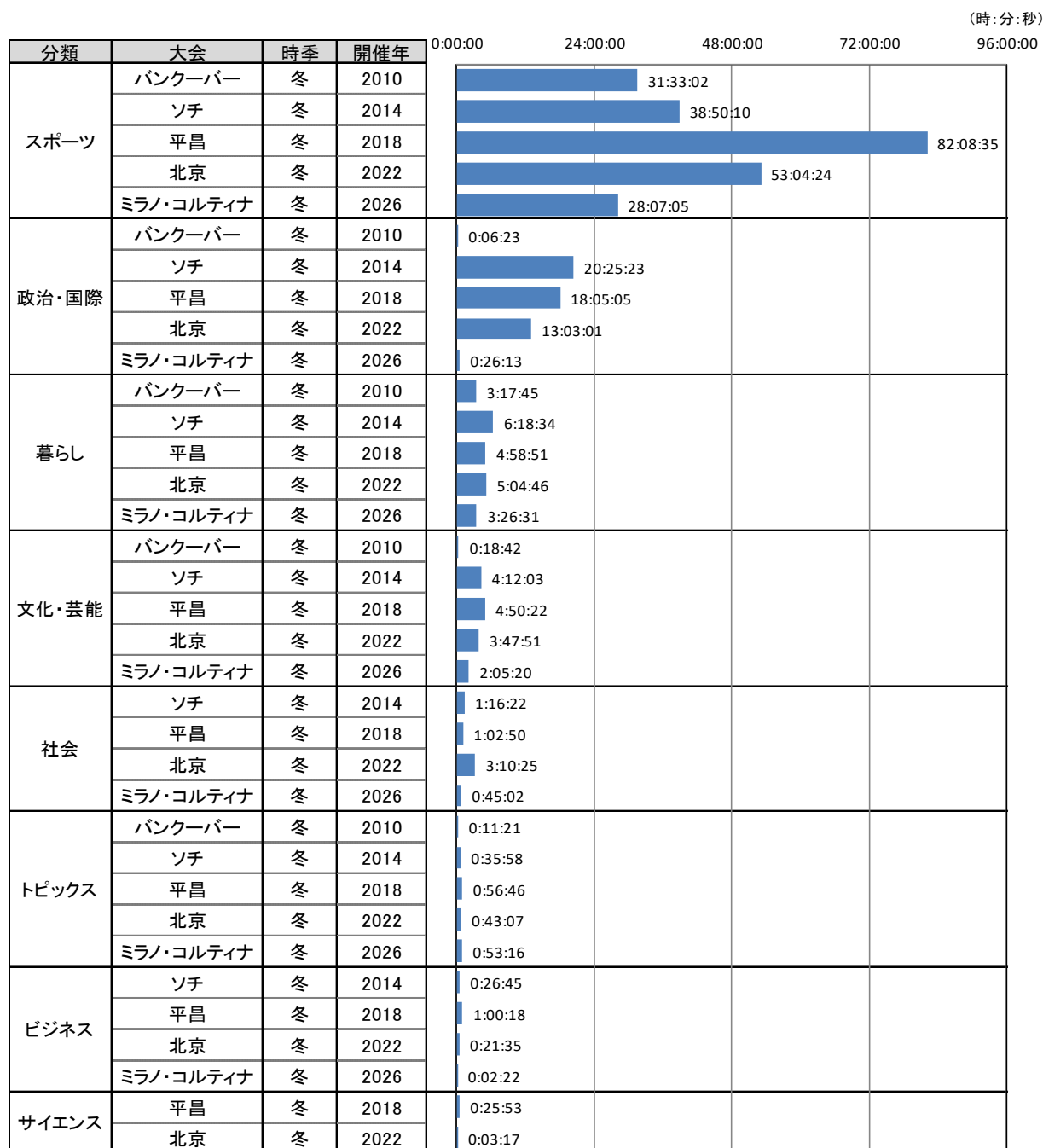
注)番組カテゴリーは番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース/報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.7 番組内コーナー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間

番組内に設けられたコーナー別に過去 5 大会(冬季)の放送時間を見ると、5 大会ともに「スポーツ」コーナーで取り上げられる放送時間が最も多かった(図表 19)。特に平昌大会は 82 時間 8 分 35 秒と、ソチ大会(38 時間 50 分 10 秒)から 2 倍以上の増加となった。以降 2 大会連続で減少し、ミラノ大会では 28 時間 7 分 5 秒と、バンクーバー大会とほぼ同規模の放送時間となった。

「政治・国際」コーナーでは、ソチ大会の 20 時間 25 分 23 秒をピークに減少し続け、ミラノ大会は 1 時間にも満たず、バンクーバー大会とほぼ同規模に戻った。「暮らし」コーナーにおいても同様の傾向が見られるが、大会ごとの放送時間の差は小さい。

図表 19 番組内コーナー別に見る過去 5 大会(冬季)の放送時間



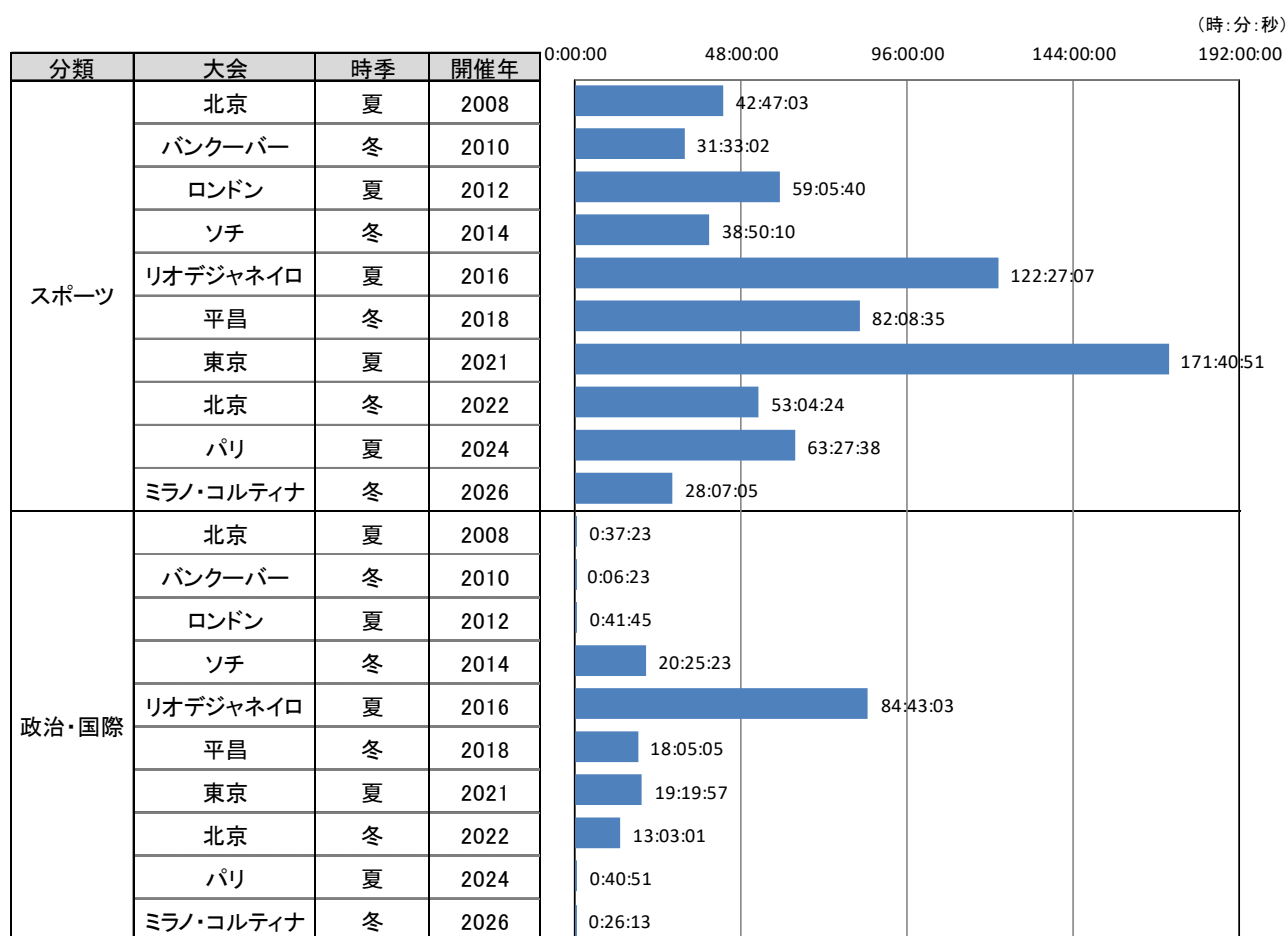
注)番組カテゴリーは、番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース／報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

2.8 番組内コーナー別(上位 2 コーナー)に見る過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間

番組内に設けられたコーナー別の放送時間上位 2 コーナーの「スポーツ」「政治・国際」について、過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間を見た(図表 20)。「スポーツ」コーナーでは東京大会(171 時間 40 分 51 秒)が最も多く、ついでリオ大会が 122 時間 27 分 7 秒であった。

「政治・国際」では、リオ大会(84 時間 43 分 3 秒)が最も多く、ついでソチ大会(20 時間 25 分 23 秒)、東京大会(19 時間 19 分 57 秒)、平昌大会(18 時間 5 分 5 秒)が僅差で並んだ。

図表 20 番組内コーナー別(上位 2 コーナー)に見る
過去 10 大会(夏季・冬季)の放送時間



注)番組カテゴリーは、番組自体の分類を指し、番組内コーナーは番組内に設けられたコーナーのことを指す。例えば、ニュース番組内のスポーツコーナーでパラリンピアンについての話題を取り上げた場合、番組カテゴリーは「ニュース／報道」、番組内コーナーは「スポーツ」となる。

3. ミラノ大会日本代表選手別の放送時間

ミラノ大会に出場した日本代表選手 44 人のうち、「開催前」「開催中」「開催後」の合計放送時間の多い上位 30 人は以下のとおりであった(図表 21)。

上位 7 人の中にはミラノ大会のメダリスト 3 人全員が含まれている。

図表 21 ミラノ大会の放送時間が多い選手上位 30 人

(時:分:秒)

NO.	氏名	ふりがな	競技	放送時間 合計
1	小須田潤太	こすだ じゅんた	スノーボード	8:04:45
2	小川亜希	おがわ あき	車いす カーリング	6:38:56
3	村岡桃佳	むらおか ももか	アルペンスキー	5:59:18
4	森井大輝	もりい たいき	アルペンスキー	3:12:29
5	川除大輝	かわよけ たいき	クロスカントリースキー	3:12:26
6	小栗大地	おぐり だいち	スノーボード	3:05:14
7	鈴木猛史	すずき たけし	アルペンスキー	3:00:44
8	新田佳浩	にった よしひろ	クロスカントリースキー	2:55:58
9	中島洋治	なかじま ようじ	車いす カーリング	2:22:21
10	阿部友里香	あべ ゆりか	クロスカントリースキー／バイアスロン	2:20:43
11	本堂杏実	ほんどう あんみ	アルペンスキー	2:13:51
12	小池岳太	こいけ がくた	アルペンスキー	2:11:08
13	伊藤樹	いとう いつき	アイスホッケー	1:57:43
14	岡本圭司	おかもと けいじ	スノーボード	1:54:52
15	福西朱莉	ふくにし あかり	アイスホッケー	1:50:55
16	坂下恵里	さかした えり	スノーボード	1:47:13
17	後田風吹	うしろだ ふぶき	スノーボード	1:42:48
18	市川貴仁	いちかわ たかひと	スノーボード	1:42:48
19	大岩根正隆	おおいわね まさたか	スノーボード	1:42:48
20	鵜飼祥生	うかい しょうせい	アイスホッケー	1:31:37
21	吉川守	よしかわ まもる	アイスホッケー	1:29:25
22	熊谷昌治	くまがい まさはる	アイスホッケー	1:19:18
23	森崎天夢	もりさき あむ	アイスホッケー	1:12:39
24	須藤悟	すどう さとる	アイスホッケー	1:08:36
25	佐藤圭一	さとう けいいち	クロスカントリースキー／バイアスロン	0:57:59
26	有安諒平	ありやす りょうへい	クロスカントリースキー／バイアスロン	0:46:51
27	出来島桃子	できじま ももこ	クロスカントリースキー	0:46:46
28	岩本美歌	いわもと みか	クロスカントリースキー	0:46:34
29	岩本啓吾	いわもと けいご	クロスカントリースキー	0:41:53
30	源貴晴	みなもと たかはる	クロスカントリースキー／バイアスロン	0:29:00

「開催前」「開催中」「開催後」ごとの放送時間の多い上位 10 人は以下のとおりであった(図表 22)。
「開催後」の放送時間上位 3 人はミラノ大会のメダリストが占めた。

図表 22 ミラノ大会の放送時間が多い選手上位 10 人(開催前・開催中・開催後)

(時:分:秒)

NO.	開催前			開催中			開催後		
	氏名	競技	放送時間	氏名	競技	放送時間	氏名	競技	放送時間
1	村岡桃佳	アルペンスキー	2:14:17	小須田潤太	スノーボード	5:59:50	村岡桃佳	アルペンスキー	0:29:59
2	小須田潤太	スノーボード	1:52:34	小川亜希	車いす カーリング	5:51:41	鈴木猛史	アルペンスキー	0:25:21
3	新田佳浩	クロスカントリー スキー	1:35:48	村岡桃佳	アルペンスキー	3:15:02	小栗大地	スノーボード	0:20:51
4	川除大輝	クロスカントリー スキー	1:35:48	中島洋治	車いす カーリング	1:46:56	小須田潤太	スノーボード	0:12:21
5	本堂杏実	アルペンスキー	1:34:53	川除大輝	クロスカントリー スキー	1:36:38	森井大輝	アルペンスキー	0:10:52
6	森井大輝	アルペンスキー	1:33:27	森井大輝	アルペンスキー	1:28:10	小川亜希	車いす カーリング	0:10:17
7	鈴木猛史	アルペンスキー	1:33:09	伊藤樹	アイスホッケー	1:22:31	-	-	-
8	小池岳太	アルペンスキー	1:31:17	新田佳浩	クロスカントリー スキー	1:20:10	-	-	-
9	岡本圭司	スノーボード	1:30:43	福西朱莉	アイスホッケー	1:17:47	-	-	-
10	阿部友里香	クロスカントリー スキーノバイアスロン	1:29:11	小栗大地	スノーボード	1:15:53	-	-	-

4. まとめと考察

2026年3月4日から12日間にわたって開催されたミラノ大会、日本からは44人の選手が参加した。長野大会の67人に続く2番目の多さであった。メダル獲得数は4個(銀3、銅1)、国別ランキングでは16位だった。金メダル獲得数は2002年ソルトレークシティー大会以来の0個だった。本調査ではこの大会のテレビ放送時間(地上波のみ)について調査を実施し、過去の大会との比較考察を行った。

過去5回の冬季パラリンピックにおける地上波テレビ放送時間は、バンクーバー大会が35時間27分13秒、ソチ大会が72時間5分15秒、平昌大会が113時間28分40秒、北京大会(冬)が79時間18分26秒であったのに対し、ミラノ大会は35時間45分49秒にとどまった。これは平昌大会の3分の1以下、北京大会(冬)の半分以下であり、バンクーバー大会とほぼ同規模となっている。放送時間はこのように平昌大会をピークとして、その後北京大会(冬)、ミラノ大会と連続して減少している。

期間別に見ると、放送量減少は大会期間中だけでなく、大会前後を含めて全期間で起きている。ミラノ大会では開催前31日間の放送が8時間14分52秒で、1日平均約16分しかなく、過去10大会(夏季含む)でも最少であった。開催中は22時間52分46秒で3大会前のソチ大会並だったものの、平昌大会の57時間24分37秒、北京大会(冬)の34時間31分35秒からは大きく減少した。さらに開催後は4時間38分11秒で1日平均約9分となり、これも全10大会中最少となった。

放送局別では、今回も報道量を牽引したのは圧倒的にNHKであった。過去5大会合計でNHK総合が154時間超、NHK教育が58時間弱と、民放を大きく上回る。ミラノ大会でも10時間以上放送したのはNHK総合とNHK教育のみであり、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京はいずれも大幅に減少した。

今回の大会の日本国内の放映権はNHKが持っており、日本人選手が出場するすべての競技・イベントについて、ライブ配信、オンデマンド動画、デイリーハイライトなどによって、日本全国の視聴者に番組を届けた。さらには、現地取材チームによるショートビデオなども制作した。民放各社はサブライセンス(再販売)を受けて一部放送したものと考えられる。今回は、NHKが公共放送としてパラリンピックの報道を実施した一方で、多くの民放はわずかな放送しかなかった。

その背景には各局が視聴率や商業性等を優先せざるを得ず、今のところ、障害者スポーツを継続的に扱うインセンティブを持ちにくいことが示唆されている。もう一步踏み込んで言うと、パラリンピックに対する国民の関心は東京大会前後には高まったが、東京大会終了後は民放各局の放送量が維持されるほどの力を持っておらず、より視聴率やスポンサーを獲得しやすい他の番組に取って代わられた、あるいは東京誘致決定前の状況に戻ったといえるのかもしれない。

番組カテゴリー(過去5大会(冬季)の合計)では、「スポーツ」が119時間26分30秒、「ニュース・報道」が103時間16分2秒、「情報・ワイドショー」が68時間36分14秒で上位を占めた。この点からは障害者スポーツは主として競技結果やニュース素材として扱われ、ドキュメンタリーや教育、福祉番組での深掘りは限定的であったことがわかる。また番組内コーナー別では「スポーツ」コーナーが233時間43分16秒と突出しており、競技成績中心の報道構造が明確である。

次にミラノ大会の放送時間が多い上位8人の選手を見てみる。1位、2位の小須田潤太選手と小川亜希選手は日本選手団の旗手を務めた。そのことが放送時間の多さに影響していると考えられる。3位の村岡桃佳選手は平昌大会、北京大会(冬)と2大会連続で金メダルを獲得している。夏季大会である東京大会にも出場した二刀流の選手でもあり、大会前から注目されていたと考えられる。残念ながら今大会ではケガの影響もあり金メダルには手が届かなかったものの2個の銀メダルを獲得した。こうしたことから放送時間も長かったと考えられる。森井大輝選手はソルトレークシティーパラリンピックから出場し、銀メダル4個、銅メダル1個を獲得

しているレジェンドである。川除大輝選手は今回、3 回目のパラリンピック出場であった。前回大会では金メダルを獲得している。6 位の小栗大地選手と 7 位の鈴木猛史選手は今大会でメダルを獲得している。新田佳浩選手は長野パラリンピックから 8 回連続出場、バンクーバー大会では金メダル 2 個、平昌大会では金メダルと銀メダルを獲得しているレジェンドである。これらの選手の特徴はパラリンピックの出場回数が多いこと、そしてメダル獲得の経験があること、さらに今大会において日本選手団の旗手を務めたことなどである。こうしたことが放送時間の長さに影響していると考えられる。

ミラノ大会を中心とした日本のテレビメディアによる障害者スポーツ報道の特徴をまとめると、最も顕著なのは放送量の大幅な減少である。東京大会の招致が決まった 2013 年以降放送量が増え、東京大会が終了したのちに放送時間が減少し、東京大会招致決定前の水準に戻るといった現象は夏季パラリンピックにおいても同様に見られた(2024 年度の本プロジェクトの報告書参照)。東京大会招致が決定した後、各放送局では東京オリンピック・パラリンピックに向けた特別体制が組まれ、放送量が増し、東京大会が終了した後は、特別体制から通常体制での放送に戻ったことが一つの要因だと考えられる。また、アジア地区以外での大会では日本との時差が大きくなることや、ミラノ大会では金メダルの獲得がなく、メダル総数も過去の 5 大会の中では最も少なかったことから放送の機会も減少したことが影響していると推察される。さらに、近年の円安等の影響を受け、取材経費が高騰し、多くの記者や放送関係者を派遣することが難しかったことや、パラリンピックやパラスポーツが他のスポーツや他のカテゴリーの番組を凌駕して注目されるものとはなっておらず、国内開催という特殊事情によって一時的に注目を浴びたに過ぎなかったことを示しているとも見ることができる。

日本のテレビメディアにおける冬季パラリンピックの報道は、2018 年平昌大会を頂点に縮小し、ミラノ大会では著しく低下したことを示している。その背景には、開催国効果の消失、冬季競技そのものの競技人口の少なさ、放映権・編成上の制約、そして民放の放送事情等があると考えられる。しかし、報道量の減少は単なる露出低下にとどまらず、障害者スポーツの社会認知、競技参加といった東京大会のレガシー形成にも影響する。例えば、パラリンピック開催期間中以外で障害者スポーツに関するニュースや番組が報道されるのは車いすテニスの小田凱人選手や上地結衣選手が活躍するテニスの 4 大トーナメントのときくらいでその機会は非常に少ない。小田選手、上地選手のように継続的に世界でトップを走ることなどで注目される選手が多数出現するか、あるいは現段階では非現実的ではあるかもしれないが、再度パラリンピックの国内開催を実現する。あるいは、国内のパラスポーツ競技団体とオリンピックスポーツの競技団体の統合が進み、日本選手権や国際大会等を同時に実施できるようになり、インクルーシブな大会という新たな価値を加味して放送に結びつけるか、パラスポーツの普及と強化により人々の関心を地道に高めることによって、パラリンピックやパラスポーツの放送量を増やすことができるかもしれない。地道な普及と強化によりトップ選手が生まれ、競技団体の統合等、共生社会を象徴するような展開によって注目を浴び、パラリンピック国内開催の機運が高まると考えるならば、今やるべきことは地道な普及と強化、そして競技団体統合の道を探ること、ということであろう。

・執筆者紹介

(ヤマハ発動機スポーツ振興財団障害者スポーツ・プロジェクトリーダー)

藤田 紀昭

日本福祉大学大学院スポーツ科学研究科 教授